

平成 28 年 6 月 8 日現在

機関番号：14401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2015

課題番号：24720178

研究課題名(和文)『切韻』佚文研究のためのデータベースの構築

研究課題名(英文)Constructing Databases for the Study of the Lost-texts of the Rime Dictionary "Qieyun"

研究代表者

鈴木 慎吾 (SUZUKI, Shingo)

大阪大学・言語文化研究科(研究院)・講師

研究者番号：20513360

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：中国音韻史研究の中心資料である隋・陸法言撰『切韻』について、特にその佚文に関する以下のデータベースを構築し、ウェブ上に公開した。(1)『切韻』佚文データベース。(2)『玉篇』検索システム。(3)統合検索システム「篇韻データベース」。またこれらをすでに公開済の広韻韻字検索システム「Web韻図」とも統合し、公開した。

研究成果の概要(英文)：We constructed the following databases regarding to the rime dictionary "Qieyun" published by Lu Fayan during the Sui dynasty, which is the main resource for study of the historical Chinese phonology: (1) "Qieyun" lost-texts database, (2) "Yupian" text database, and (3) integrated search system "Pian-Yun Database", and we released these databases via WWW. And we also integrated them with Guangyun search system "Web Yuntu" which has previously been constructed.

研究分野：中国語学

キーワード：切韻 佚文 韻書 データベース

1. 研究開始当初の背景

中国音韻史研究の中心資料である隋・陸法言撰『切韻』は、原本はつとに失われ、王仁昉による増訂本『刊謬補缺切韻』の一本が完本として伝わるほかは、唐五代の各種増訂本が残巻として伝わるのみである。これらの残巻の多くは、いわゆる敦煌・吐魯番文献として発見されたものであり、これまでに多くの研究者によって整理、研究がなされてきた。上田正『切韻残巻諸本補正』(1973)はそれらの研究を網羅的に集めた、当時の研究段階における集大成と言える。申請者はこれまで、上田氏のこの研究を基礎とし、特に上田氏の段階でまだ発見されていなかった諸残巻についてテキストの釈文とそれらに対する分析を行ってきた。これにより、すでに発見されている残巻資料のテキストの整理はほぼ完了したと言ってよい(鈴木 2004, 2009, 2010b)。

次にすべきことは、各々のテキストの増補、継承の具体的なありさまを探ることである。研究代表者はこれに関連し、『切韻』の各残巻に現れる字体を考察し、それにより、字体の考察が切韻の増補、継承関係を検討する上で重要な根拠となり得ることを示した(鈴木 2005)。

さて、今回の研究の中心課題である『切韻』の佚文とは様々な書物に断片的に引用された『切韻』のテキストを指すが、これは『切韻』増補本の状況を知る上で極めて重要な資料の一つである。これについてはすでに上田正『切韻逸文の研究』(1984)があり、『切韻』の膨大な量の佚文が集められているが、この研究は残念ながら後の研究者にほとんど継承されないままとなっている。今回の研究の主眼は上田氏のこの研究をさらに前進させることにある。

2. 研究の目的

『切韻』増補の具体的な状況を探るとい

大きな目標に到達する手段としては、残巻自身のテキストを精査することと、佚文を検討することの両面が必要である。いわば前者は内部資料、後者は外部資料からの検討である。このうち、前者についてはすでに多くの研究がなされてきた。しかし、後者の佚文資料については整理がまだ不十分であり、今回の研究はこの方面に重点を置いたものである。具体的な項目と目標は以下のとおりである。

(1) 『切韻』佚文資料の収集、確認

『切韻』の佚文は上田正『切韻逸文の研究』によってすでに大量に収集されているが、上田氏の記述には誤りも少なくない。本研究では上田氏の研究をもとに佚文資料を再調査し、また上田氏が見落とした佚文もあわせて収集する。

(2) 佚文に関する先行研究の整理

『切韻』の佚文に関する先行研究の内容を精査し、資料毎に整理する。これらの先行研究は最終的に佚文データベースの側からアクセスできるようにする。

(3) データ入力、検索システムの構築

上田氏の研究をベースに、原巻による確認を行った佚文を XML 形式でデータ化する。膨大な量があるが、3年間をかけて完成を目指す。また一方で、佚文を任意の形式で取り出すことのできる検索システムを構築する。これは WWW で公開し、『切韻』の文献学的研究における基本インフラとして整備する。

(4) 佚文の検討

完成したデータベースを元に、佚文を形式と内容の面から検討を行い、特に性格のいまだに分かっていない佚文に関してその性格を明らかにする。

(番外) 残巻資料との対校

次の段階は、構築された佚文データベースを残巻資料と比較し本格的な検討に入ることあるが、これは作業量が多いため、今回の研究の継続課題とする。ただし、今回の研究で(4)までが完成していれば、容易に着手する

ことができるはずである。

3. 研究の方法

(1) 平成 24 年度

『切韻』佚文資料の収集、確認

『切韻』佚文は上田正『切韻逸文の研究』によってすでに大量に収集されているが、転写の誤りが少なくない。それでまずは上田氏の研究をもとに、所拠文献の原物調査を行い、基礎資料の収集を行った。国内の文献が多いが、一部海外のものもあり、必要に応じて調査出張を行った。また影印本で足りる場合はこれを利用した。ただし、今回の研究以前の準備段階においてすでに収集済の資料もあり、それらも合わせて利用した。

佚文に関する先行研究の整理

『切韻』の佚文に関する先行研究を資料毎に整理した。これらの先行研究は最終的に佚文データベースの側からアクセスできるようにした。

データフォーマットの検討

収集した佚文をデータ化する際のフォーマットを検討した。データ化形式は当初 XML を予定しており、課題開始前からサンプルデータを構築していたが、研究開始後に検討を加えた結果、MySQL+PHP に変更することにした。

データの入力

策定したデータフォーマットに従って佚文データを入力した。ここは人力が必要なので、学生作業員のチーム（主に中国語学を専攻する大学院生およびオーバードクター計 5 名程度で構成）に依頼した。入力したデータは全て、別の作業員によってチェックを行い、最終的には研究代表者（鈴木）がチェックした。

(2) 平成 25 年度

「データの入力」は前年度から継続して作業を行った。また、「佚文資料の収集、確認」は 24 年度中には完成しなかったので、

継続調査を行い 25 年度中の完成を目指した。25 年度に新たに加わった項目は以下の通り。

公開方法の検討

佚文データを任意の形式で取り出すことのできるデータベース検索システムの設計を行った。システムはブラウザベースのウェブアプリケーションとした。これについては、過去に行ったアプリケーション開発の知識と技術を応用した（鈴木 2010a）。

公開作業

で策定した公開方法に基づき、公開用のアプリケーションを開発し、WWW 上に設置、公開した。またこの段階において、必要に応じて構築したデータに適宜加工を行った。

佚文検討作業

完成したデータベースを元に、佚文について体例と内容の面から実際の検討を行い、特に性格が十分に分かっていない佚文についてその性格を明らかにすべく作業を行った。

(3) 平成 26 年度

「データの入力」は前年度から継続して作業を行い、完成を目指した。また完成しつつあるデータを元に「佚文検討作業」を行うことで、現在想定されていないデータ構築上の問題点を洗い出し、データベースを完成させた。

4. 研究成果

(1) 『切韻』佚文データベースの構築

『切韻』佚文について、まずは上田正『切韻佚文の研究』を基礎にデータ入力を行った。その後、二百数十種の前資料（影印本等）を収集、あるいは出張調査し、入力データに対して校勘を行い、必要に応じて校記をつけた。その中で、上田氏上掲書に漏れている佚文が少なからずあることが判明したので、資料の全文データが入手できる場合はこれを利用して、そうでない場合は直接資料を調査して遺漏データを検出し、追加入力を行った。結果的に入力されたデータは 17936 件となった。

入力された佚文データには、利用の便を考
えて断句を施した。また、引用切韻名にはマ
ークアップを施し、機械処理に備えた。なお、
当初予定していたフォーマットはXMLであっ
たが、検討の結果これを変更し、Excel で入
力したデータをMySQLに流し込む方式を採用
した。

(2) 『切韻』佚文データ検索システムの作成
構築された佚文データベースを検索する
システムを作成した。データベース管理シス
テムにはMySQLを用い、またアプリケーション
はPHPで作成し、ウェブブラウザからアク
セスできるようにした。これにより、「上田
頁、行」「文字」「佚文」「音韻情報」「引用切
韻」「資料」をキーに佚文データが検索でき
るようになった。

(3) 『玉篇』検索システムの作成

HDIC (Integrated Database of Hanzi
Dictionaries in Early Japan. = 平安時代
漢字字書総合データベース) が公開している
宋本『玉篇』の全文データを用い、その検索
システムを作成した。これは当初の予定にな
かったものだが、上記『切韻』佚文検索シス
テムを流用できるということで作成した。シ
ステムは同じくMySQL+PHPである。

(4) 「篇韻データベース」への発展

以上の『切韻』佚文データと『玉篇』全文
データを統合し、「篇韻データベース」とし
て総合的な検索システムを構築した。またさ
らに本課題以前に作成した韻図形式による
広韻音節表示システム「Web 韻図」も統合し、
これを「篇韻データベース」の音韻見取り図
となるよう再構築を行った。

(5) 「切韻諸本残存状況一覧図」

以前作成した、『切韻』諸本の残存状況を
視覚的に示した「切韻諸本残存状況一覧図」
を修正の上、雑誌(『中国語学研究開篇』)に
発表した。

(6) 予定していた佚文の検討は未完了に終
わった。これは今回の課題終了後も継続して

行う。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線)

[雑誌論文](計3件)

鈴木 慎吾、『切韻』諸本による陸本の復
元について、漢デジ2014: デジタル翻刻
の未来、京都大学人文科学研究所附属東
アジア人文情報学研究センター、2014、
pp.45-59

鈴木 慎吾、切韻諸本残存状況一覧図 :
切韻諸本研究資料之一、中国語学研究開
篇、31、2012、pp.334-344

澤田 達也(研究協力者)、原本『玉篇』
収録字の依拠資料、中国語学研究開篇、
31、2012、pp.218-225

[学会発表](計2件)

鈴木 慎吾、關於《韻鏡》的“内外轉”、
中国語音韻史研究会、2013年6月15日、
東京大学(東京)

澤田 達也(研究協力者)《經典釋文》脂
之韻反切用字的分布: 與《玉篇》反切比
較、中国語音韻史研究会、2013年6月15
日、東京大学(東京)

[その他]

データベース公開ウェブサイト

篇韻データベース

<http://suzukish.s252.xrea.com/search/>
切韻佚文検索

[http://suzukish.s252.xrea.com/search/
qieyun_yiwen/search_top.php](http://suzukish.s252.xrea.com/search/qieyun_yiwen/search_top.php)

宋本玉篇検索

[http://suzukish.s252.xrea.com/search/
yupian/search_top.php](http://suzukish.s252.xrea.com/search/yupian/search_top.php)

Web 韻図

<http://suzukish.s252.xrea.com/search/>

inkyo/index.htm

6 . 研究組織

(1)研究代表者

鈴木 慎吾 (SUZUKI, Shingo)

大阪大学・言語文化研究科・講師

研究者番号：20513360

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

澤田 達也 (SAWADA, Tatsuya)

大阪大学・言語文化研究科・特任研究員